

## 7月7-11日週のポンド円レビュー

July 14, 2008

### 全般クロス円の流れに沿いつつも上値重い

High : 212.43 円 Low : 210.26 円  
 Close : 211.36 円 (前週比 0.34 円)  
 金利据え置きとなった MPC の影響は限定的だった。基本的にクロス円全般の流れに沿いつつも、210 円前半へ下振れするなど、総じて上値の重い推移となった。

7/7 (月) 211.82 円 (前日比 + 0.12 円)  
 ドル円の買い戻しに連れ、ポンド円も 214.43 円まで上昇。しかし英製造関連指標の悪化やドル円がいつて来いで反落となったことを受け 210.99 円まで下振れ。その後はドル円・クロス円が反発したため 212 円台へ。

7/8 (火) 211.73 円 (前日比 0.09 円)  
 サミットに参加していたメルケル独首相が、為替に関する文言を声明へ加えるように要請したとの報道を受け、ユーロ円がストップロスの売りをつけて下落。ポンド円も 210.26 円まで下落した。しかしバーナンキ FRB 議長が「対証券会社貸出を 09 年まで延長する」と述べたことでドル買い戻しが活発化。ポンドは対ドルで売られたものの、ポンド円はクロス円が全般に買い戻されたことを受けて 211 円後半へ反発した。

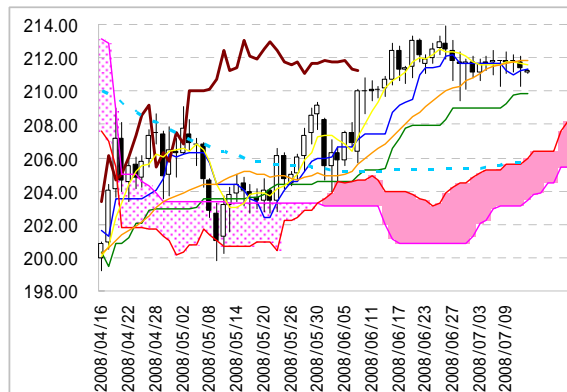
7/9 (水) 211.73 円 (前日比 ± 0.00 円)  
 原油が底堅く、ポンドを含め対ドルで各通貨が堅調となった。ポンド円も買い先行となり 212 円台へ上昇。しかし、NY に入ると米政府系住宅金融機関の損失拡大観測でリスク回避の売りが進み上昇幅を削った。

7/10 (木) 211.80 円 (前日比 + 0.07 円)  
 ドル円の長期為替予約の買いが活発化したことを受けポンド円も 212 円台へ上振れ。しかし米政府系住宅金融機関に関する懸念を背景にドル円が急落。ポンド円も一時 211.18 円まで下落した。一方、金利据え置きを発表した MPC の影響は限定的だった。

7/11 (金) 211.36 円 (前日比 0.44 円)  
 米住宅金融機関に関する懸念から NY 市場でドル売りが先行。ポンドドルは急騰したものの、ポンド円はクロス円への売り圧力を受けて 210.26 円まで下振れ。その後は英系金融機関による米系証券の買収の噂が金融不安を和らげる材料と受け止められ、リスク回避を意識した動きが収まり 211 円前半へ戻して引けた。

月日	High	Low
7/7 (月)	212.43 円	210.99 円
7/8 (火)	211.85 円	210.26 円
7/9 (水)	212.33 円	211.06 円
7/10 (木)	212.17 円	211.18 円
7/11 (金)	212.12 円	210.26 円

### ポンド円の推移



### テクニカル短期・中期ポイント

- 217.01 (月足一目均衡表・転換線)
- 214.51 (200 日移動平均線)
- 214.04 (1 月 25 日高値)
- 212.43 (7 月 7 日高値)
- = 先週末の NY クローズ 211.36 円 =
- 210.26 (7 月 8 日安値)
- 209.83 (日足一目均衡表・基準線)
- 208.29 (週足一目均衡表・転換線)
- 205.99 (日足一目均衡表・雲の上限)

### 英国の重要指標結果

- 7/7 (月) [結果] (前回)
- 英 5 月鉱工業生産 [ 0.8% ] ( + 0.1% )
- 英 5 月製造業生産 [ 0.5% ] ( ± 0.0% )
- 7/8 (火) [結果] (前回)
- 英 5 月 DCLG 住宅価格 [ 前年比 + 3.7% ] ( + 4.9% )
- 7/9 (水) [結果] (前回)
- 英 6 月ネーションワイド消費者信頼感 [ 63 ] ( 69 )
- 英 5 月貿易収支 [ 74.94 億ポンド ] ( 75.27 億 )
- 7/10 (木) [結果] (前回)
- 英 6 月 HBOS 住宅価格 [ 2.0% ] ( 2.5% )
- 英政策金利発表 [ 5% 据え置き ] ( 5% 据え置き )

### アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 209.83-214.04 円

英景況を見る上でポイントである信頼感指数のひとつ、9 日発表のネーションワイド消費者信頼感指数は 63 となり 4 年ぶりの低水準。こうした状況を踏まえれば、ポンド円はクロス円全般の流れに沿って底堅さを継続しても、上値の重さを引きずることになりそうだ。